

CSW 報告 3月2日

【日 付】3月2日、11:00

【場 所】Brooklyn YWCA

【題 目】Visit to Brooklyn YWCA

【参加者】11名

【内 容】1888年の創立以来ずっとブルックリンで活動をしているというYWCA of Brooklynを表敬訪問した。簡単な自己紹介の後で Executive Director (総幹事に当たる)のMartha KamberからブルックリンYWCAの歴史や活動について説明を受け、建物内を見学させてもらった。ブルックリンYWCAは古くから、ニューヨークに暮らす低所得者の女性、シェルターを出ても行き場のないホームレスの女性たちのためのワンルームマンションを運営しており、現在も建物の2階から11階までが居住地域となっている。中には50年以上も暮らしている女性もいるという。ところが、建物の老朽化とブルックリン地区の再開発によって、大手ファーストフードチェーンや薬局に建物を売却し場所を移すことも検討したが、ここを第二の故郷とみなす高齢の女性たちのために、思い切った決断を下すことにした。具体的には、ファンドレイジングをして、大規模な建物の改修工事を行い、居住地域を増築し、省エネ・バリアフリーにする、民間企業ではなく市民団体に事務所スペースを貸し出す、コミュニティセンターを新設し、コミュニティの住民がクラスやミーティングのために無料で使用できるようにする、老朽化した劇場を、音楽団体に長期契約で賃貸しし、改修費用を負担してもらう、というものであった。訪問時は、1階のコミュニティセンターで高齢者のためのエクササイズのクラスがちょうど終わったところであった。その後増築された6階の居住地域を見学し、実際に3人の女性の部屋の中に入れてもらった。ワンルームではあっても台所付きの広々とした清潔な空間で、3人の女性それぞれ個性が光るインテリアであった。劇場はちょうど改修工事が行われているところで、完成後にはジャズコンサートが催されるそうである。ブルックリンYWCAにはかつては米国初の民間の看護学校や秘書養成学校、プールやジムがあり、古い写真やポスターからその様子を垣間見ることができた。現在は「人種差別の撤廃、女性のエンパワーメント」をミッションに、女性の健康増進、リーダーシップ・エンパワーメント、アドボカシーなど様々なプログラムを実施している。(吉田)

【感想】初めに、その建物の大きさに驚いた。しかし、中でお話しを伺うと、2階から上は上記のように住宅スペースとなっていることを知り、その大きさの意味を納得したのと同時に、日本では見られないような、行き場のない女性のための住宅スペースを運営するという発想と、その活動にまた驚かされた。日本でも、土地が少ないという点での違いはあるが、行き場のない女性にとって、他にも虐待された子供たちなどにとって、安心して住まえるような安全基地ともいえるホームを提供するような活動をもっと活発に、そして多くの人が協力的に行うべきであると感じた。ブルックリンYWCAでは、実際に3人の女性の部屋を拝見させていただいたが、とても綺麗で、施設などのような雰囲気とは違って、住む人にとってのホームであることが強く感じられた。また、建物の広さと施設を利用して、とても上手に資金繰りをしようとしていると思った。さまざまな団体や人々に貸し出し、利用する機会を与えることは、ファンドレイジングのみでなく、多くの人々と交流する機会を与えるという大きな意味も持っているのだと感じた。1888年の創立以来、その志がぶれることなく、ずっと続いてきており、女性のために、今もこうして活動しているということのすごさと歴史を感じ、自分も同じように、強い気持ちをずっと持って、活動できるように頑張りたいと感じた。(小山)